

學明倫堂の講師となり、安政四年又藩命によつて類聚國史缺典補修の事を督したが、衆未だ緒に就かずして同年七月十九日歿した。享年六十二。その歌集に菊園遺芳・園の菊があり、後者には勇猛之の作も合輯せられてゐる。

タナキ 榊木 鳳至郡宇出津の小字。今宇出津港の入口に家屋のある所で、元の榊木城の城下であるといふ。

タナキウチ 榊木氏 能登の守護昌山氏の庶流で、鳳至郡榊木に居た。大永中榊木左衛門謀叛の聞えがあつて、長英連等之を攻めたことがある。後又榊木左門氏といふものがあり、その子新五連之は長秀連の養子となつたが、遂に越後に走つて黒瀧に居り、黒瀧長氏の元祖となつた。

タナキカツセン 榊木合戦 天正十年五月長興市景連は越後から渡海して能登に侵入し、島倉吉藏・熊倉伊勢・剣見與十郎と共に鳳至郡榊木城に籠つた。その頃長連龍は越中魚津城を攻撃してゐたが、引返して榊木城を攻め、五月廿二日之を陥れ、景連は小林平左衛門の爲に討たれた。當日の大手一番乗は阿岸掃部、一番首は國分上右衛門、搦手一番乗は鈴木因幡、一番首は奥村慈休であり、討死は岡部名左衛門・阿岸掃部であつた。

タナキジヨウ 榊木城 鳳至郡宇出津灣東方の山上に在つて、一に田名木に作り、遠島山ともいふ。天正十年長興市景連これに據つて滅びた。越登賀三州志故墟考に、宇出津入海の左方の山の崎、南へ指出る地、幅百間許に長三百間許の所を城跡といふと記する。

タナキシラヤマジンジャ 榊木白山神社 鳳至郡宇出津に鎮座する。文應二年の諸橋六

郷目録に、宇出津神田のうち二段白山とあるものは是である。式内等舊社記に『榊木白山神社。宇出津村榊木鎮座。舊社也。』とある。今は單に白山神社と稱する。

タナキマサエ 榊木雅枝 鳳至郡宇出津の人。二郎と稱し、丹背の術を文龍に學んだ。文龍は伊勢の人で、多年榊木氏に寄食したものである。明治五年七月十二日歿。

タナバタ 七夕 藩政の時、七月七日を七夕又は星祭といふた。前日子女は靨を洗ひ清め、この日八つ手の葉の裂片七個なるを選び、その表面に七夕の歌などを書し、二枚を重ねて葉柄を紙にて包み、河中に之を流す。或は桐葉を以てするものもあつた。又葉付の竹に『奉二星』など書したる大行燈を貫き、四隅に紅白切紙の裝飾を施し、竹枝に短冊・提灯を吊したるを作つた。この行燈は土家・町人共に之を造り、日暮れる時は、淺野川・犀川の橋上に至つて之を河中に投するのであるが、河中には藤内等があつて、浸らぬ前に之を得んとし、橋上の者はそれを水中に投入するの機を窺うて互に奪ひ合つた。又行燈を護衛する各團體が途上に衝突して争鬪し、傷害を負ふことも間々あつた。

タナベイチザエモン 田邊市左衛門 初めて前田利家に仕へて百石を受けた。子孫相繼いで、藩に仕へる。

タナベカケイ 田邊夏卿 大聖寺の人。通稱英之助。父は輅。幼にして敏慧。安政六年廣瀬旭莊の來遊するや、夏卿を自して北陸隨一の英才であるといふた。夏卿乃ち江戸に出て安井息軒に學んだが、明治維新の前二十餘歳で歿した。

タナベサダマサ 田邊定正 通稱藤兵衛。初め織田信長に仕へたが、後前田利家に臣事して六十俵を受け、天正十六年六月十二日歿。子孫相繼いで藩に仕へる。

タナベシゲマサ 田邊重政 通稱久五右衛門・助太夫。藤兵衛定正の子。天正十八年初めて祿百四十俵を受け、八王子及び大聖寺の役に戦功があり、慶長九年閏八月百五十石を加へて三百石となり、大坂再役に平野口で首一つを得た。寛永十八年享年七十で歿。

タナベスケマサ 田邊助正 通稱貞之助。少より武技を好み、後江戸に出で、長巻の術を清水正則に學び、門下に教授すること二千人を越えた。藩内に長巻の刀法の起つたこと助正に初るといはれる。明治元年家を襲いで祿百三十石を受け、北越の役に功があり、金澤藩權少屬に任ぜられた。明治十一年十一月十八日歿、享年五十二。

タナベナホカド 田邊直藤 通稱判次郎・義右衛門・覺兵衛判五兵衛。明和四年新番となり、八年前田治脩の近習に勤仕し、安永七年祖父判五兵衛正武の遺知二百石を受け、天明四年五十石、寛政四年又五十石を増し、九年御使番より次第に昇進して新番頭に至り、文化十三年隱居して休焉と號し、二十人扶持を受け、文政二年六月廿八日歿した。

タナベノブタカ 田邊信高 通稱佐五右衛門。慶長十六年前田利常に仕へ、祿加増共六百五十石に至り、足輕頭となり、寛文十年に歿。その嫡統は第六代佐五右衛門の時斷絶した。

タナベノブマサ 田邊信藏 通稱佐太夫・佐五右衛門。一説は正明。組外に班し、三百石を受けた。御書物奉行・御近習番に累任したが、その妹にして野村傳兵衛の後家であつたものを預るうち、寶圓寺九峰と通じた事件に座し、文化十二年三月青木新兵衛に御預となり、十三年正月十八日越中五ヶ山に流された。

タナベハチザエモン 田邊八左衛門 初めて前田綱紀に仕へ、二百石を領し、元祿十五年歿。子孫相繼いで藩に仕へる。

タナベヒデミチ 田邊慶道 通稱群吾。御大工頭久承の子。初め御居間方御歩として七十俵を得、天明二年新知八十石を受けて組外に進み、三年五十石。同年又百石、五年七十石、文化九年五十石、次いで五十石を加へ、御近習詰・奥御納戸奉行等を勤め、竹澤御殿中奥組に班せしめられ、文政七年前田齊廣の卒去後隱居して暇亭と號し、二十人扶持を受けた。

タナベヒヨウエモン 田邊兵右衛門 父は井關宗兵衛と稱し、初めて前田利長に仕へて、五十石を領した。後祖父藏人の田邊氏を肩し、祿三百石に至り、元祿元年歿。子孫相繼いで藩に仕へる。

タナベマゴスケ 田邊孫助 初名勘左衛門。御算用者より出で、同小頭に進んで新知八十石を領し、後三十石を加へ、安永四年組外に班した。子孫相繼いで藩に仕へる。

タナベマサオノ 田邊政己 通稱は吉左衛門。後吉平に改めた。寶曆三年に生まれ、天明六年八月新番組に列し、御近習番加人になつたが、寛政八年三月御近習勤仕となり、文化十二年七月家祿二百石を襲ぎ、組外に列し、再び御近習番となつた。次いで文政五年十月祿五十石を加へられて二百五十石を受け、六